資料１－１

OECD　Digital Economy Paper（2021年1月）
Children in the Digital Environment
Revised Typology of Risks
（デジタル環境下のこども　改定リスク類型）について

令和７年２月12日
第2回　インターネットの利用を巡る青少年の保護の在り方に関するWG

1 はじめに

OECDとは

○　OECD（経済協力開発機構）とは、経済成長、開発途上国支援、自由かつ多角的な貿易の拡大を設立目的に掲げる国際機構であり、現在38か国が加盟。

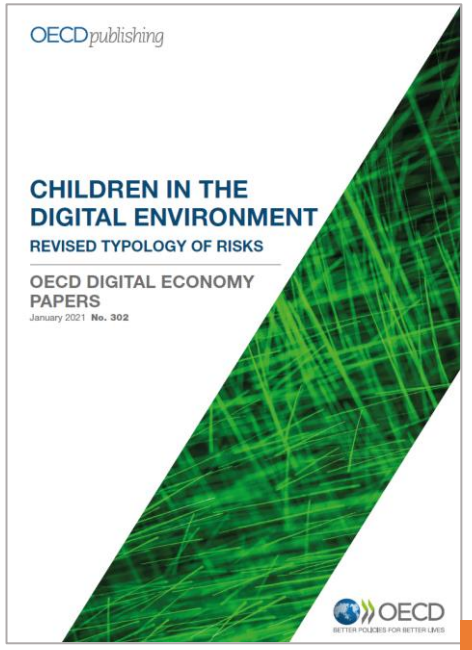
○　経済政策・分析、規制制度・構造改革、貿易・投資、環境・持続可能な開発、公共ガバナンスなど多岐にわたる経済・社会分野において、調査、分析、政策提言を行うことから「世界最大のシンクタンク」とも呼ばれている。

本報告書について

○　OECDは、2011年に本報告書の前身となるリスク類型を採択した。

○　しかし近年、デジタル環境等が大きく変化していることに伴い、OECDが再度こどもの生活に影響を与える可能性のあるリスクを特定・分析し、2011年のリスク類型を改訂する形で本報告書を発表。

○　こどもがデジタル環境下で直面する可能性のある様々なタイプのリスクを、高水準かつ包括的に概観するものであり、「サービス、政策、規制を設計する際には、こども自身のデジタル環境に対する理解、デジタルスキル、完全かつ十分な情報に基づき同意をする能力を考慮に入れることが重要である」と示されている。



Revised Typology of Risks

Figure 1. Typology of Risks

Risks for Children in the Digital Environment				
Risk Categories	**Content Risks**	**Conduct Risks**	**Contact Risks**	**Consumer Risks**
Cross-cutting Risks*	Privacy Risks (Interpersonal, Institutional & Commercial)			
	Advanced Technology Risks (e.g. AI, IoT, Predictive Analytics, Biometrics)			
	Risks on Health & Wellbeing			
Risk Manifestations	Hateful Content	Hateful Behaviour	Hateful Encounters	Marketing Risks
	Harmful Content	Harmful Behaviour	Harmful Encounters	Commercial Profiling Risks
	Illegal Content	Illegal Behaviour	Illegal Encounters	Financial Risks
	Disinformation	User-generated Problematic Behaviour	Other Problematic Encounters	Security Risks

*Note: The Typology acknowledges risks that cut across all risk categories ("Cross-cutting risks"). These risks are considered highly problematic as they may significantly affect children's lives in multiple ways.

Source: OECD and Berkman Klein Center for Internet and Society at Harvard University.

3 改定リスク類型

【参考】「デジタル環境下の子供　改訂リスク類型（2021年）（Children in the Digital Environment/ Revised Typology of Risks）

4

○　技術的な進展や新しいビジネスモデルによって、新たなリスクが発生していることから、2011年に示したインターネット上の青少年に対するリスク分類が2021年１月に改訂された。

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	１対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク（性的人身売買、チャイルド・グルーミングも新たに含む。）	消費者としてのリスク（個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）
横断的なリスク	プライバシー・リスク（個人間（保護者、友人）、機関（病院・学校等）、商業（データ追跡の商業利用）） 先進技術のリスク（例：AI、IoT、予測分析、生体認証） 健康や幸福のリスク			
リスクの顕現	憎悪コンテンツ（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な行動（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な遭遇	マーケティングリスク（違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング等）
	有害コンテンツ（オンライン詐欺、暴力的・性的な宣伝等）	有害な行動（ネットいじめ等）	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク（広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用等）
	違法コンテンツ（児童の性的搾取、テロ行為の主張等）	違法な行動	違法な遭遇	財務リスク（デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等）
	偽情報	ユーザーの生成による問題な行動（セクスティング）	その他の問題な遭遇	セキュリティリスク（マルウェアを含むアプリ、フィッシングメール等）

（出典）OECD レポート「Children in the Digital Environment/ Revised Typology of Risks」　出典：青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース（総務省作成資料）

4 コンテンツ・リスク (Content Risks)

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	1対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク（性的人身売買、チャイルド・グルーミングも新たに含む。）	消費者としてのリスク（個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）
横断的なリスク	プライバシー・リスク（個人間（保護者、友人）、機関（病院・学校等）、商業（データ追跡の商業利用）） 先進技術のリスク（例：AI、IoT、予測分析、生体認証） 健康や幸福のリスク			
リスクの顕現	憎悪コンテンツ（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な行動（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な遭遇	マーケティングリスク（違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング等）
	有害コンテンツ（オンライン詐欺、暴力的・性的な宣伝等）	有害な行動（ネットいじめ等）	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク（広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用等）
	違法コンテンツ（児童の性的搾取、テロ行為の主張等）	違法な行動	違法な遭遇	財務リスク（デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等）
	偽情報	ユーザーの生成による問題な行動（セクスティング）	その他の問題な遭遇	セキュリティリスク（マルウェアを含むアプリ、フィッシングメール等）

１対多のインターネット環境の中で、こどもが受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク

憎悪コンテンツ

写真、言葉、ビデオ、ゲーム、シンボル、歌の形をとることができ、人種、性別、障害、性的指向、性自認がこれを動機づけることもある。

有害コンテンツ

○　オンライン詐欺、アダルト広告、不快または恐怖を感じるニュースや写真、暴力的なアダルトコンテンツ。
○　ある種類の有害コンテンツを見たこどもは、他の種類の有害なコンテンツも見ている傾向が高まるという報告がある。

違法コンテンツ

公開することが違法なコンテンツ。児童ポルノ、テロ行為の擁護、犯罪の助長・扇動に関するコンテンツは多くの国で違法であるものの、差別的コンテンツをはじめ、国によって違法性の有無や取り組み方は異なる。

偽情報

こどもはニュースの信憑性を高めるものについて異なる解釈をする可能性があるほか、ほとんどSNS等からニュースや情報を取得していることに鑑みれば、コンテンツを批判的に分析する強力なデジタルリテラシースキルを必要としている。

5 コンダクト・リスク (Conduct Risks)

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	1対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク（性的人身売買、チャイルド・グルーミングも新たに含む。）	消費者としてのリスク（個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）
横断的なリスク	プライバシー・リスク（個人間（保護者、友人）、機関（病院・学校等）、商業（データ追跡の商業利用）） 先進技術のリスク（例：AI、IoT、予測分析、生体認証） 健康や幸福のリスク			
リスクの顕現	憎悪コンテンツ（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な行動（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な遭遇	マーケティングリスク（違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング等）
	有害コンテンツ（オンライン詐欺、暴力的・性的な宣伝等）	有害な行動（ネットいじめ等）	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク（広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用等）
	違法コンテンツ（児童の性的搾取、テロ行為の主張等）	違法な行動	違法な遭遇	財務リスク（デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等）
	偽情報	ユーザーの生成による問題な行動（セクスティング）	その他の問題な遭遇	セキュリティリスク（マルウェアを含むアプリ、フィッシングメール等）

こどもが他のこどもに生じさせるリスク

憎悪的な行動

宗教、人種、性別、障害、性的指向、性自認のほか、アクセント、言語スキル、外見、趣味、音楽、ファッション等によって動機づけられることもある。被害者を怒らせたり、いじめたり、侮辱したりすることを主な目的とする。

有害な行動

デジタル環境を利用して他のこどもを攻撃する行動。繰り返すことでいじめに繋がる可能性がある。

違法な行動

こどもが加害者である場合、刑事司法における対応は、自分たちの行為の影響に気づいていないこどもたちを犯罪者扱いすることにつながりかねず、大きな議論を呼ぶ可能性がある。

ユーザーの生成による問題行動

○　「セクスティング」（性的なメッセージの交換）が共有された場合、瞬く間に拡散し、デジタル環境に永続的に残る可能性がある。
○　こどものプライバシー、健康、ウェルビーイングに影響を与えるのみならず、こどもが児童ポルノ製造等の被疑者になる可能性もある。

6 コンタクト・リスク (Contact Risks)

こどもがデジタル環境に関わる際のリスク。こどもが被害者（受信者）となるリスクであり、ネットいじめ、セクスティング、セクストーション等の性的搾取、性的人身売買、チャイルド・グルーミング等の被害が含まれる。

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	1対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク（性的人身売買、チャイルド・グルーミングも新たに含む。）	消費者としてのリスク（個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）
横断的なリスク	プライバシー・リスク（個人間（保護者、友人）、機関（病院・学校等）、商業（データ追跡の商業利用）） 先進技術のリスク（例：AI、IoT、予測分析、生体認証） 健康や幸福のリスク			
リスクの顕現	憎悪コンテンツ（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な行動（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な遭遇	マーケティングリスク（違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング等）
	有害コンテンツ（オンライン詐欺、暴力的・性的な宣伝等）	有害な行動（ネットいじめ等）	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク（広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用等）
	違法コンテンツ（児童の性的搾取、テロ行為の主張等）	違法な行動	違法な遭遇	財務リスク（デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等）
	偽情報	ユーザーの生成による問題な行動（セクスティング）	その他の問題な遭遇	セキュリティリスク（マルウェアを含むアプリ、フィッシングメール等）

憎悪的な遭遇

こどもが、憎悪の感情にさらされるもの。

有害な遭遇

こどもに危害を加える意図を持って行われるもの。

違法な遭遇

違法行為に当たるもの。

その他の問題な遭遇

問題であるが、上記のいずれにも位置付けることができないもの。

7 消費者関連・リスク (Consumer Risks)

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	1対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク（性的人身売買、チャイルド・グルーミングも新たに含む。）	消費者としてのリスク（個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）
横断的なリスク	プライバシー・リスク（個人間（保護者、友人）、機関（病院・学校等）、商業（データ追跡の商業利用）） 先進技術のリスク（例：AI、IoT、予測分析、生体認証） 健康や幸福のリスク			
リスクの顕現	憎悪コンテンツ（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な行動（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な遭遇	マーケティングリスク（違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング等）
	有害コンテンツ（オンライン詐欺、暴力的・性的な宣伝等）	有害な行動（ネットいじめ等）	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク（広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用等）
	違法コンテンツ（児童の性的搾取、テロ行為の主張等）	違法な行動	違法な遭遇	財務リスク（デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等）
	偽情報	ユーザーの生成による問題な行動（セクスティング）	その他の問題な遭遇	セキュリティリスク（マルウェアを含むアプリ、フィッシングメール等）

消費者としてのリスク（こどもが個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）

マーケティングリスク

○　違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング、懸賞、アドバーゲーム。
○　こどもは自分が見ているコンテンツが広告であることに気づかず、結果的に説得されやすくなる場合があるほか、アプリやオンラインゲームにおいて提示される情報を完全に理解できる能力がない可能性がある。

商業的なプロファイリングのリスク

○　広告主が、十分な説明をせず又は違法に、こどものSNS等の利用に係るデータを利用する場合に発生するリスク。
○　こどもは自分の個人データの使用に関する事項を理解するための十分なリテラシースキルを持っていないが、現在、世界的に受け入れられている、こどもの商業的プロファイリングを規制するためのアプローチは存在しない。

財務リスク

○　知らないうちに、デジタルアシスタントを通じた商品注文や定期的な支払いが必要なサービスへの申込みをする可能性がある。
○　保護者の同意なく、製品・サービスに多額のお金を費やすよう影響を受けることにより生じるリスク。

セキュリティリスク

マルウェアを含む無料ゲームや、個人情報の盗難を容易にする可能性のあるフィッシング。

8 横断的なリスク (Cross-cutting Risks)

	コンテンツ・リスク	コンダクト・リスク	コンタクト・リスク	消費者関連リスク
各リストの詳細	1対多のインターネット環境の中で、子供が受動的に受け取る又はさらされるコンテンツにまつわるリスク	子供が他の子供に生じさせるリスク	子供がデジタル環境に関わる際のリスク（性的人身売買、チャイルド・グルーミングも新たに含む。）	消費者としてのリスク（個人情報に基づきターゲットされることによるリスク）
横断的なリスク	プライバシー・リスク（個人間（保護者、友人）、機関（病院・学校等）、商業（データ追跡の商業利用）） 先進技術のリスク（例：AI、IoT、予測分析、生体認証） 健康や幸福のリスク			
リスクの顕現	憎悪コンテンツ（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な行動（誹謗中傷、差別等）	憎悪的な遭遇	マーケティングリスク（違法・年齢に不適切な商品、ネイティブ広告、不透明なインフルエンサー・マーケティング等）
	有害コンテンツ（オンライン詐欺、暴力的・性的な宣伝等）	有害な行動（ネットいじめ等）	有害な遭遇	商業的なプロファイリングのリスク（広告主によるソーシャルメディアの利用のデータの利用等）
	違法コンテンツ（児童の性的搾取、テロ行為の主張等）	違法な行動	違法な遭遇	財務リスク（デジタルアシスタントを通じた無意識の商品注文等）
	偽情報	ユーザーの生成による問題な行動（セクスティング）	その他の問題な遭遇	セキュリティリスク（マルウェアを含むアプリ、フィッシングメール等）

コンテンツリスク、コンダクトリスク、コンタクトリスク、消費者関連リスクを横断するリスク

プライバシーリスク

①与えられたデータ　②追跡データ　③推定データ

- ▶ 個人間　こどもたちは、①については認識しており、共有するか否か、誰に共有するかを意識的に決定している可能性が高い。保護者がSNS等でこどもの情報を共有することは、プライバシーの問題のみならず、こどもを様々なリスクにさらす可能性。
- ▶ 機関　病院や学校が収集する、主に①のデータからリスクが発生する可能性。
- ▶ 商業　こどものみならず、保護者も②・③のデータの収集方法や利用方法についての知識が不足している可能性。

先進技術のリスク

- ○ AIベースの技術の使用や生体認証に係るデータ保護・プライバシー、IoTのハッキング、予測分析の使用に伴う倫理的懸念。
- ○ 一般的に、先進的技術のリスクの影響に関する実証的な証拠はまだほとんどない。

健康と幸福（ウェルビーイング）のリスク

- ○ ネットいじめが被害者であるこどものメンタルヘルスに影響を及ぼすことが懸念されるように、他のリスクを横断する可能性がある。
- ○ スマホやSNSの利用がこどものメンタルヘルスに及ぼす影響に関する懸念が広がっているが、これを裏付ける十分な証拠はない。
- ○ 起こりうるリスクを理解するためには、利用時間のみならず、こどもの年齢、成熟度、置かれている環境、利用目的・内容を吟味することが不可欠。